

チェルノブイリの子どもたち



チェルノブイリ子ども基金 NEWS No. 83 2010年12月18日発行

今年もご支援をありがとうございました

5/25 ~ 6/7

汚染地域の子どもの保養
ウクライナ



＜保養参加者の母親からの手紙＞

今年の夏、マトヴェイは「希望21」で保養をしました。ベラルーシ北部の美しい自然のあるところです。大事なことはそこがゴメリのような放射能に汚染された地域ではなく、きれいな地域であるということです。そして汚染されていない安全な食品を与えられることは、病気の子どものたちにとってとても重要です。ご支援をありがとうございます。

7/22 ~ 8/14

腫瘍病の子どもの保養
ベラルーシ



5/17 ~ 5/28

チェルノブイリ被害者家族の保養
ベラルーシ



チェルノブイリ 25 周年救援キャンペーン

「広河隆一 チェルノブイリ報告会
& チャリティーコンサート」

2011年4月23日(土)

牛込筆筈区民ホール(東京都新宿区)

スライド講演 広河隆一

ゲスト 東京荒川少年少女合唱隊

(詳細は4頁に掲載)

2010 年の支援活動報告

今年も皆様の募金のおかげで以下のよう
な支援活動を行うことができました。
ほんとうにありがとうございました。

来年もチェルノブイリの子どもたちへのご支援をよろしくお願いいたします。

	円	内訳
ウクライナ	医薬品代	930,600 内分泌研究所・医薬品
	運営費	465,300 「チェルノブイリ子どもたちの生存」
	特別保養費	1,108,530 汚染地域の病気の子ども
	合計	2,504,430
ベラルーシ	医薬品代	933,606 ベラルーシ慈善団体「困難の中の子どもたちへ希望を」
	運営費	925,835 ベラルーシ2 慈善団体*
	保養費	3,248,097 「希望 21」汚染地域の子ども
	特別保養費	1,508,164 甲状腺手術後の子ども・腫瘍病の子ども
	特別保養費	481,798 チェルノブイリ被害者家族
	合計	7,097,500

*「困難の中の子どもたちへ希望を」「チェルノブイリのサイン」／保養費には交通費・保険代を含みます。

ウクライナ 内分泌研究所 所長より

2010年に貴基金よりいただいた 10,000 ドルで購入した医薬品についてご報告します。エウチロクス（2290 箱購入）は 794 人の患者に 1650 箱が渡され、残り 640 箱は、一時的治療施設の患者のために予定されています。カルシウム剤（250 箱購入）は 220 箱がすでに患者に渡され、残り 30 箱は今後のために保管されています。患者自身が購入するとなると大変高額なため、日本からの支援にみんなとても感謝しています。

<2011 年の計画>新たに 500 人の患者を治療のために受け入れる。1,200 人の患者にスキャン検査を行う。4,000 人の患者にチロキシン療法を行う。合計 5,700 人の患者が照射検査・治療棟を訪れる予定。もし 2010 年と同額のご支援をいただければ大変ありがたいです。（所長 N・トロニコ）

ウクライナ保養 引率者の報告

子どもたちの骨に問題が起きているのは、汚染された食べ物から摂取してしまっているストロンチウムのせいです。それはカルシウムの吸収を抑えてしまうため骨が弱くなるのです。体の中でストロンチウムの蓄積が続くと、大人になってガンなどの病気になる恐れがあります。ナロジチは放射能汚染地区に指定されています。でも人々はその地区でとれた野菜や、森のきのこやいちご類、川の魚を食べています。驚くことに、12 歳くらいの子どもが大人のかかるような胃潰瘍になっています。今回保養に参加しているほとんどの子どもたちも胃腸に問題があります。また、貧血のある子どもも大変多いです。大人では、チェルノブイリ事故当時子どもだった世代のガンが目だっています。咽頭ガン、肺ガン、胃ガンな

どです。女性では子宮がんや乳がんも多いです。(ジトーミル州ナロジチ地区中央病院 小児科医 M・エレーナ)

ベラルーシ保養 参加者の感想

○リョーシャは「希望 21」でたくさんの友だちと過ごしてきました。息子はそこが大好きになりました。これまで行った保養所の中で一番よかった、と言っています。遠足に行ったこと、泳いだこと、子どもたちのためのいろいろな催しがたくさんあったことを話してくれました。彼はいろいろなクラブ活動にも参加しました。一番気に入ったのはコンピュータ教室と卓球でした。また、マッサージ・入浴・塩療法などのいろいろな治療を受けました。私は満足そうな様子の息子を見ていてうれしくなりました。(ベラルーシ ゴメリ市 G・アレクセイの母親)

○「希望 21」は他のどの保養所よりよいところです。素晴らしい治療施設があり、食事もおいしく、そして面白くてためになるいろいろなクラブ活動に参加できるところが気に入っています。ロシア語で書かれた日本文化に関する雑誌はとても興味深く、いつもみんなで読んでいました。(ベラルーシ ゴメリ市 N・イワン 15 歳)

2011 年支援の予定

＜ベラルーシ＞

児童健康回復センター「希望 21」：このセンターでは放射能汚染地域に暮らしている子どもたちを、年間を通して受け入れています。「子どもたちの保養費用の一部」を

支援します。全額子ども基金の費用で「**腫瘍病の子どものための特別保養**」「**甲状腺ガンの手術を受けた親とその子どもの特別保養**」をこのセンターで実施します。

慈善団体「困難の中の子どもたちへ希望を」：この団体を通して特別保養に参加する子ども・家族が選ばれます。ベラルーシの里子・奨学生の支援金の受け渡し窓口となっています。会員の子どものための薬代、スタッフ給料と事務所維持費の一部を支援します。

慈善団体「チェルノブイリのサイン」：団体はすでに解散しましたが、里子への支援金受け渡しや、元会員たちの「希望 21」への保養は引き続き行われるため、スタッフ 2 名分の給料と通信費を支援します。

＜ウクライナ＞

病院「内分泌研究所」：甲状腺の病気の患者の薬代を支援します。

慈善団体「チェルノブイリ・子どもたちの生存」：この団体を通して特別保養に参加する子どもが選ばれます。ウクライナの里子の支援金の受け渡し窓口となっています。スタッフ給料と事務所維持費の一部を支援します。

「汚染地域に住む病気の子どものための特別保養」：今年実施したクリミア半島の子どもサナトリウムで実施します。

※チェルノブイリ事故 25 周年・医療機器支援キャンペーンを実施します。詳細は次号に掲載します。

チェルノブイリ 25 周年救援イベント 2011 年 4 月

- 2011 年 4 月 26 日は、チェルノブイリ事故から 25 年目にあたります。また、来年は子ども基金が設立されてから 20 年です。この節目の年にふさわしい“救援イベント”を計画しています。みなさまのご協力・ご賛同をお願いいたします。

(主催) チェルノブイリ子ども基金 Tel&Fax 03-5228-2680

“チェルノブイリ 25 周年”

広河隆一最新現地報告 & チャリティーコンサート
2011 年 4 月 23 日 (土) 午後 2 時開演 牛込筆筈区民ホール

◇チェルノブイリ最新報告

- フォトジャーナリスト広河隆一 (子ども基金顧問・DAYS JAPAN 編集長) は、2011 年春現地取材の予定です。その最新情報をお届けします。

◇チャリティーコンサート

出演者/東京荒川少年少女合唱隊、

東京荒川少年少女合唱隊は、日本の童謡からオペラまで幅広い歌をこなし、地元荒川区での定期演奏会や出張コンサートをはじめとして、全国および海外の児童合唱団とのジョイントコンサートなどさまざまな活動を行っています。1965 年に創立された伝統ある合唱団です。先輩には片岡鶴太郎さんもいらっしゃるそうです。

4 月 23 日には、チェルノブイリにちなんだ歌も披露していただく予定です。

特別ゲスト クミコ (予定) 「INORI〜祈り〜」 ヒット中!

次号で詳しい情報を掲載します。

♪チケット発売開始予定 2011 年 1 月中旬より

- ♪チラシ・ポスターも 1 月中旬ごろ出来上がり予定。配布にご協力ください。

♪子ども基金ホームページ [最新情報欄]、ブログ [神楽坂事務局だより] にも随時新しい情報を掲載します。

広河隆一チェルノブイリ写真展

4 月 14 日 (木) ~ 19 (火) 入場無料

早稲田奉仕園スコットホールギャラリー

チェルノブイリ事故 20 年目の 2006 年 4 月、ベラルーシで行われた国際会議にあわせて現地で写真展を開催しました。そのときに作った大型写真 20 点ほか広河隆一写真展事務局が管理している多数の写真から、できるだけ点数を借りて展示したいと準備中です。

また、展示場所となる早稲田奉仕園スコットホールギャラリー (仮称) は年明けから改装予定で、4 月にオープンします。多くの人たちに見ていただけるよう 6 日間の開催です。

☆賛同カンパを募っています。一口 1000 円、みなさまのご協力をお願いいたします☆

K・イリヤ

2000 年生まれ

ゴメリ市

昨年 4 月に右頸骨の基部骨肉腫と診断され、入院していた。化学療法後、イリヤは大変痩せてしまった。右足に手術の傷跡が残っており、足の太さは左足の半分くらいしかない。右足の踵がしっかりつけない



い状態で、家の中では壁や家具につかまりながら左足だけをついて歩いている。外では両杖で歩いている。以前看護婦をしていた祖母が、家でイリヤの足のマッサージをしている。これからリハビリ施設に通う予定で、矯正用の靴の購入も必要になる。

ゴメリ市内の2部屋のアパートで祖母、母親カーチャの3人で暮らしている。父親は3年前、41歳のとき脳卒中で亡くなった。父親の死亡後、遺族年金を受けていたが、現在はイリヤの障がい児年金を受けている。イリヤは退院後、まだ学校に通うことができないため、先生に家に来ても

らい授業を受けている。

外に自由に遊びにいけないイリヤの趣味は、プラモデルやブロック遊びだ。部屋の中にはイリヤが組み立てたプラモデルの戦艦やブロックの建物などがたくさん飾ってあった。

父の死後、父方の祖母はカーチャとイリヤに対して冷たい扱いをした。同居していたときはイリヤの障がい児年金を半分家計に入れるように言われ、家を出るときには一部のものしか持ち出せなかった。「他にも夫と2人で買ったものがあったのに・・・」とカーチャ。彼女はイリヤの病気のことと、義母との関係に苦労

したためか、別人のように痩せてしまったという。

病気になる前のイリヤは空手教室にも通う、活発な子だった。化学療法後、髪の毛が全部抜けてしまった。今少しずつ生えてきている。祖母のアパートに越してきたばかりのころは近所に友達がいなかったが、最近同じアパートの男の子と友達になり遊びに来るようになった。



P・リーザ

2007 年生まれ ゴメリ市

訪問した日のちょうど 1 週間前、ゴメリ市の放射線センターで血液検査を受けた。化学

療法の後には食欲が落ちるという（化学療法の副作用で髪が抜けてしまっている）。「リーザは病気になってからとても神経質になりました。なるべく泣いたり怒ったりさせないように気をつけています」と両親は話した。「元気に育っていたのに、2歳のとき急に40度の熱が出て吐き気もありました。

病院に連れて行くと、たいしたことないからもう帰ってよいと言われました。どうみても娘の様子がおかしいので私はどうしても納得できず、もっとちゃんと見てほしいと頼みました。別の医師が異常に気づいてくれて、超音波検査をしました。ヘモグロビンの値が低く、すぐにミンスクの小児ガンセンターに移送されました。あの時あの医師がいなかったらどうなっていたかわかりません」母親は思い出しながら涙を浮かべた。

現在はミンスク市とゴメリ市の両方の病院に通っている。治療費はどちらも無料だが、ミンスクに通うための交通費が負担となっている。父親は電気エンジニア。以前働いていた国営企業が閉鎖のため求職中。現在は自宅でテレビの修理やアンテナを設置したりする仕事をして稼いでいる。母親は産休中。「小児ガンセンターで髪の毛のない子どもをたくさん見た時、ショックで倒れそうになりました。病院は病気の子どもでいっぱいです。どんなに多くの子どもが病気になっているかわ

かります。これはチェルノブイリのせいだと思います。リーザは血液検査のとき自分から手を出します（指から採血する）。決して泣きません。病室で一番我慢強い子でした。家に帰ってくると、ビニール手袋をしてお医者さんごっこをしています」訪問した日も午後から検査に行く予定だった。

ミンスク市の病院に行くとき、免疫力の低いリーザは列車での移動が危険なため父親が車で連れて行く。兄ワロージャ（8歳）は「どうしてリーザばかり何でも許されるの」とすねることがあるという。妹ヴェロニカ（2歳）はいたずら盛り。リーザとおもちゃを取り合って遊んでいた。

リーザは障がい児には認定されたが、チェルノ

ブイリ事故被害者にはまだ認定されていない（現地慈善団体によると、最近は書類を提出しても認定を拒否されることが多くなっているとのこと）。アパートに住んでいる祖母はよく子どもたちの面倒をみってくれる。「病気の孫のことでいろいろお金がかかるので、仕事があれば働きたいですが、なかなかありません。今はリーザのことが最優先。この子の健康だけが心配」と話した。5人家族は、古い木造家屋を修理しながら暮らしている。大型ショッピングセンターが家の前に建設されたため車の通りも多くなり、空気があまりよくない。庭では花と少しの野菜を作っている。



P・エゴール

1997年生まれ ゴメリ市

生後10ヶ月で左腎臓の悪性腫瘍が発見され

た。左腎臓を摘出。化学療法を受けた。1年後右肺に転移。手術後さらに化学療法。1年に1度小児がんセンターに検査に通っている。現在は右腎臓のみで生きている。病気がちで、よく喉が痛くなり風邪をひきやすい。訪問した日も風邪気味で少し熱があった。チック症があり目をぱちぱちさせる。身長が年齢にそぐわず低い。市内には障がい児の通う学校がないため、普通学級に通っている。激しい運動は医師から禁止されている。学校では他の子どもたちがエゴールの病気を理解していて、叩いたり押したりしてはいけないことを知っている。成績が大変よく、数学や化学のオリンピックで成績優秀生として毎年表彰されている。卓球と軽音楽を聴くのが好き。将来のことははっきり決めていないが、ジャーナリストに興味がある

という。以前はチェルノブイリ障がい児に認定されていたが、2009年6月に認定を取り消された。認定されていたときは年金の他に通院のための交通費の免除もあったが、現在は国からの援助が全くなかった。以前は父親の収入も安定していて、障がい児年金も十分



だったため、母の収入がなくても安心して子どもの世話ができた。しかし経済危機後、家庭の経済状況が苦しくなり、母親も店で働くようになった。

家族が住んでいるのは、チェルノブイリ汚染地域から避難してきた家族のために建設されたアパート。避難してきた人たちはみんな高齢化しており、その子どもや孫たちはアパートの部屋を売って別のところに移り住む人もいるそうだ。

エゴールの姉は大学の経済学部3年生。「今の若い人たちは大変。学歴があっても仕事がない。高学歴の若者が市場で店員をしている。彼らは両親の経済援助がないと生活できなくなっている」と母親は話した。

G・ヤロスラフ

2000年生まれ ゴメリ市

突発性血小板減少紫斑病、鉄分欠乏性貧血症、壊死性小腸・結腸潰瘍。ヤロスラフは

生後3ヶ月で発病。血液センター、放射線センターなどいろいろな病院で検査を受けた。その後、2005年に2度手術を受けた。1回目は脾臓の摘出。2回目は小腸と大腸の一部切除。回復するには長期間かかった。しかし2007年に突発性血小板減少紫斑病を発症。5歳の誕生日

は手術から 10 日後、病院のベッドの上で迎えた。「息子は病院中で一番重症な子どもでした。誕生日のときにはお医者さん、看護婦さん、心理カウンセラーなど、みんながプレゼントを持ってベッドのそばで祝ってくれました。これがこの子の最後の誕生日になるかもしれない、と誰もが思ったのでしょう・・・」思い出しながら、母親は声をつまらせた。

手術後、3-4 日間は助かる確率がとても低かったという。退院後も 2 年間学校へ通えず、自宅学習をしていた。常用している薬は 15 日間分で約 12 ドル。それ以外にも、発熱やせきなどの薬を買うこともある。薬代だけで 100 ドル近くかかったこともあったそうだ。「息子はあまりに長い間いろいろな薬を飲んでいたので、体がおかしくならないか心配です」と母親。以前は通院の交通費が無料だったが、現在は自己負担となった。ヤロスラフは今も月に一度検査のため通院している。8/13 に受けた検査では、ヘモグロビン値が低く、鉄分も不足していた。

ヤロスラフと母親がミンスクの病院にいるときに、父親が交通事故で亡くなった。現在母子家庭手当を受けている（子どもが 18 歳になるまで受けられる）。ヤロスラフが頻繁に病気になり通院・入院が必要なため母親は働きに出ることができない。

「慈善団体“ 困難の中の子どもたちへの希望 ”のおかげで、毎年クリスマスのプレゼントをもらったり、サーカスに招待してもらったり、それから 2 回も“ 希望 21 ”で保養をさせてもらって本当に感謝しています」と母親は話した。

ヤロスラフは“ 希望 21 ”での保養期間中、

絵画・陶芸・木工細工・わら細工・折り紙などの教室に参加し、一生懸命に取り組んでいた。ヤロスラフは「希望 21」がとても気に入ったという。昨年作った折り紙や、表彰状などを大切に保管している。

里子の結婚

ゴメリ市出身で 25 歳のオーリャは、子どもの頃甲状腺ガンの手術を受け、長い間里親からの支援を受けていました。外国語大学を卒業後、現在はミンスク市内の外国語学専門学校に勤務しています。10 月に結婚式を挙げました。現在は自動車整備の仕事をしている夫と市内のアパートで暮らしています。1DK の部屋の家賃は一月 200 ドル。これはミンスクでは安い方だとのこと。「仕事は忙しくてストレスがたまるけれど、今の暮らしが気に入っています。ゴメリには月に一度両親に会いに帰ります」





【キルギスのチェルノブイリ被害者】

中央アジアの国・キルギスといえば、今年4月に発生したクーデターとその後の民族衝突で一時期新聞の国際欄を賑わせていましたが、普段は落ち着いた、とても穏やかな国です。首都ビシュケクはソ連式の集合住宅が整然と並び、よく整備された公園があちこちにあります。街では様々な民族が行き交い、彼らの多くはロシア語を「共通語」にして生活しています。天気が良い日は街からでも雪を被った天山（テンシャン）の連峰が見え、郊外に行けば馬や羊が放し飼いにされている牧歌的な光景に出会うことができます。

昨年、私はそんな街でホームステイをしながらロシア語とキルギス語の勉強をしていました。キルギスでは「国家語」のキルギス語と「公用語」であるロシア語の二言語以上を話す人がほとんどです。日本の大学で言語学を学んでいた私は、こうしたバイリンガル社会に興味を持ち、首都ビシュケクの大学に留学しました。そしてそこである人と出会ったことからチェルノブイリに関心を持ち、この記事を書くに至ったのです。

その人は私のステイ先に度々やって来てはウォッカやビールを飲んで帰っていくのが常でした。豊かな口ひげを蓄えたそのキルギス人は私のことを何故か「コウハイ」と呼び、よく日本の歴史や文化についての知識を披露してくれました。初めのうちロシア語もキルギス語もあまり理解できなかった私は彼が一体何者なのか知らず、やたら博識の酔払いとしか思っていないのですが、徐々に正体が判明して

きました。彼一カディルベック氏（50）は、キルギスのチェルノブイリ事故処理作業員（リクヴィダートル）退役者をまとめる「チェルノブイリ同盟」の代表だったのです。

ご存知の通り、チェルノブイリ原発事故の後、様々な事故処理のために60万人の作業員がソ連各地から集められました。その後、彼らの中から身体や精神の不調を訴える人が続出し、多くの方が亡くなりました。カディルベック氏から渡された資料によると、キルギスからも4000人が事故処理に従事し、現在「チェルノブイリ同盟」に加入している約1500人のうち9割は何らかの障害や病気を抱え、その子供2152人のうち15%も障害や病気で苦しんでいる（2009年）とのことです。彼らが一体どのような障害・病気を患っているのか等詳細までは聞くことができませんでしたが、今もウクライナやベラルーシ以外で「チェルノブイリ」によって多くの人の苦しみが続いているのは事実です。そして旧ソ連各国にある「チェルノブイリ同盟」とは、そうした人々の互助団体として重要な役割を果たしているのです。

当時は「労働者英雄」として称賛された彼らも、ソ連が崩壊した今となっては国により境遇はまちまちです。独立した旧ソ連各国の間ではいま、経済や医療体制の格差が歴然としています。隣国カザフスタンとは違い、資源の乏しいキルギスでは経済成長が立ち遅れ、優秀な医師は国外へ出て行ってしまっています。そのことをカディルベック氏も嘆き、日本など他国からの助けがあれば、と訴えていました。

しかしその日本ではチェルノブイリの記憶が

風化し、支援団体の規模も年々縮小しているのが事実です。さらにキルギスというあまり関係の深くない国とあっては、援助の手を差し伸べるのも難しいと思います。それでも私たちには出来ることがあります。それは「忘れないこと、伝えること」です。

首都ビシュケク最大の市場「オシュバザール」の近くにあるユリウス・フチク公園にはチェルノブイリ原発事故とリクヴィダートルの記念碑が数年前に立てられました。チェルノブイリに関わった人々が年々亡くなっていく中、こうした忘れないための努力が続いています。観光客が行くような場所ではないですが、キルギスを訪れた際にはぜひこの記念碑にも立ち寄り、事故と被害の記憶を多くの人に伝えてほしいものです。(松下 聖 筑波大学 人文学類4年)

*来年2月に筑波大学にて子ども基金スタッフの講演が予定されています。

【チェルノブイリ事故の話聞いて】

<江戸川区立第六葛西小学校 5年生>

11/14 子ども基金スタッフが出張授業に行きました。●私たちの生活で電気は欠かせません。その電気は発電所からきます。CO2を出さない発電所の原子力発電所はいいなと思っていました。しかし今日の話聞いて驚きました。原子力発電所はウランという広島原爆と同じ材料で、チェルノブイリ事故では原爆800発分の放射能が出たそうです。そのせいで今でも子どもたちががんや白血病に苦しめられています。ウランなどの危険なものを使わないで電気が作れるようになったらいいです。●24年経ってもまだ原発の力は衰えず、子どもたちがガンにかかっているととても恐ろしいものと改めて思いました。不思議に思ったのは、なぜそのような危険な発電をするのかという

ことです。すぐそばに爆弾を置きながら仕事をしているようにしか思えません。確かにCO2をださないという点ではいい発電の仕方だと思いますが、万が一爆発してそれがチェルノブイリより大きな事故だったとしたら、CO2により影響を与えるよりとても早く、生物に大きな影響を与えることになってしまいます。発電量が少なくても、風力発電、太陽光発電、水力発電などをした方がいいと思います。または原子力発電所にかかる費用を新しい発電の仕方を見つけるための研究に使った方がいいと思います。よって僕は原子力発電に反対です。●話を聞いたとき、ウクライナから遠く離れた日本にまで影響が及んだということが一番びっくりしました。それに今でも放射能の影響で苦しんでいる子どもたちがいることもとてもびっくりしました。私たちは普通に学校に行って普通に生活しているのに、同じ地球には放射能の影響でがんと闘っている子どもがいると言うのを知り、私は悲しくなりました。私は小さいときから大工になりたいと思っていました。だけど最近、恵まれない子どもたちのためのボランティアもやってみたいと思い始めました。そこにちょうど今日のお話を聞いて、本当にボランティア活動をやりたいと思いました。●私は今まで保育園、幼稚園を卒業したら小学校に行くのは当たり前のことだと思っていました。でも普通に勉強して安全な給食を食べられるのはとても恵まれていることなんだと思いました。病気になってしまった人たちに早く元気になってほしいと思います。そして二度と放射能がどこの国にも発生しないように願っています。これからはご飯を残さず食べて、なるべく学校は休まないようにしようと思いました。



12月に入り、ミンスクの街中にはいつも通り地味なモミの木のツリーが立てられ、目抜き通りには普段見られないイルミネーションも登場してそれなりに新年が近付いていることを感じさせます。冬至に向かうこの時季は日の出が遅く、午後を回るとあっという間に暗くなってしまう。朝は7時でも真夜中と同じような暗さなので、寝過ぎす危険も大。表を雪かきする音で慌てて起きることもあります。

～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．

年末も押し詰まった12月19日、ベラルーシでは大統領選挙が予定されています。最終的に候補として登録されたのは、現職のルカシェンコ大統領を含め10名。国家元首を選出する国政上、最も重要な選挙ですが、現職大統領が支持率で他の候補に大差をつけており、選挙戦はごく静かなものです。新年の飾りと同様、街中には選挙が近づいていると感じさせるものは余り多くありません。全候補者を顔写真入りで一覧表示したポスターを見かけましたが、数は少なく、またサイズも小さく、数か月前に行われた市議会議員選挙の時より目立たないように思われるほどです。投票日まで一週間を切り、地下鉄の車内放送で選挙と期限前投票実施についてのアナウンスが嫌でも耳に入る程度です。

候補者の顔ぶれは、ビジネスマンから若手経済学者、作家と年齢も経歴もさまざまです（全員男性）。前回の選挙は2006年3月に実施され、ルカシェンコが他候補を寄せ付けず三選を果たしたのですが、野党勢力が統一候補の下にある程度の支持を集めることに成功し、投票後に結果を不服としてミンスクの中央広場に数日間に亘って集結する騒ぎとなりました。それから5年近い時間が経過し、現状をよしとする空気はさらに濃くなったように思われます。欲を言えば切りがないのかもしれませんが、平均月収は上

昇を続け、年金はCIS諸国で最高水準、育児手当も割増しになっています。特に首都ミンスクでは住宅不足を解消すべくアパートの建設が進み、町並みも目に見えてきれいになっています。その一方でインフレ水準もCISで最高であり、現在の社会政策は採算を無視したもので必ず破綻する、と言われているのですが、とりあえず現政権は、安定し、繁栄に向かう国家のイメージづくりに成功し、特に農村部や年配者層から確固たる支持を集めています。「欧州最後の独裁国家」という不名誉なレッテルを貼られて久しいベラルーシですが、何と云っても治安が良く、テロもない平和な現状は、争いを好まない国民性をもつベラルーシ人にとって、何ごとにも代え難いものなのでしょう。19日の投票後、前回と同じく広場に集まることを呼びかける対立候補者もいますが、多くの国民はこうした動きに眉をひそめているようです。

今、この原稿を書きながら選挙のことを調べようと思い、インターネットで検索をしたのですが、何故か軒並み「サーバーのエラーにより」ページが開かなくなっていました。幸いこれはほんの僅かのことで、ほどなくしてネットは復活したのですが、思わず、検索した内容のせいかと勘繰ってしまいました。前回の選挙前は、国外との通信状態が明らかに悪くなり、日本も含め外国からのFAXが入りにくかったという記憶があります。

選挙の結果に番狂わせは無いと思われますが、変革を求める勢力にとってはまたとない機会でもあり、投票後、どのような展開になるかが注目されます。年明けには通貨が下落して物価が高騰するという噂も一部に聞かれ、せめて穏やかに新年を迎えられることを願いたいものです。

花田朋子：ミンスク在住

販売品のご案内

収益はすべて子どもたちの支援に！



おかげさまで、2011 年度カレンダーは完売しました。みなさまのご協力に感謝いたします。

ポストカード

「いのちの輝き」 6 枚組 広河隆一写真
500 円 10 セット以上 1 割引き



書籍

★『ニーナ先生と子どもたち』1,300 円
広河隆一著・写真（小学館）“日本語版”
チェルノブイリ事故により放射線汚染地域となった学校のニーナ先生、病気の子どもたち、自然界の異変、人が住めなくなった村など、被災地の様子を、写真を通して伝えています。

★『生きていたい！』1,600 円 チェルノブイリ子ども基金編（小学館）
チェルノブイリ事故当時、被害にあった子どもたちが描いた絵と詩。ふりがなつき。小学校低学年のお子さんにも適しています。

★「写真記録 チェルノブイリ消えた 458 の村」
8,000 円 広河隆一著（日本図書センター）

放射能汚染により人の住むことができなくなってしまった村々の貴重な写真記録集。

CD・DVD

★CD「消えた故郷・生命の輝き 2」ナターシャ・グジー（子ども基金 制作）2,000 円

チェルノブイリ 15 周年救援 CD アルバム

★CD「セルツェ」ナターシャ・グジー（音楽センター）2,500 円

★CD「ここに咲く花」2,500 円 ナターシャ・グジー、カーチャ・グジー（音楽センター）

★DVD「DIGNITY(尊厳)」2,000 円 広河隆一/映像 青柳拓次/音楽（広河隆一事務所）
テーマはチェルノブイリとパレスチナ。

●ご注文方法：①住所 ②電話番号 ③氏名
④希望品名と数量を明記の上、FAX・TEL・メールでお申し込みください。子ども基金の HP からもお申し込みいただけます。

●お支払い方法：振込用紙を同封しますので、品物が届きましたらお振込みください。小額の場合には切手でのお支払いも可能です（封筒に金額分の切手を入れてお送りください）。※別途送料がかかります。（物販情報は子ども基金のホームページ“最新情報欄”にも一部写真入りで紹介しています。）

里親の皆様へ

里子に新年のカードを送りたいけれど宛名の書き方がわからないなど、お困りの場合は事務局にご相談ください。向こうの新年は 1 月 15 日ですので、年が明けてからでもまだ間に合います。



里親のページ

里子の家族から里親宛に届いた手紙をご紹介します。

~~*~*~*~*~*~*~*~*~*~*~*

ニーナは「髄芽細胞腫」の手術（これは小脳の腫瘍です）後、化学療法、照射療法を受けました。最近受けた検査の結果、娘の卵巣が発達していないことがわかりました。娘は18歳ですが、発育状況は10-11歳の子どもと同じなのです。ホルモン剤を飲ませています。こちらでは手に入らないので、知人を通じてロシア製のものを買っています。一袋25000ベラルーシルーブル（約8ドル）です。一袋で10日分です。その薬は常に必要です。それから、甲状腺に二つの腫れものがあります。その他、目にも異常があり、視力が急速に低下し、痛みも感じるようになりました。眼鏡を処方され、塗り薬をもらいました。聴覚にも問題があります。片耳はほとんど聞こえず、もう片方は少し聞こえる程度です。また平衡感覚が麻痺しているため、うまく歩くことができません。19歳の長女は今年職業学校に入学しました。彼女には心臓の病があります。12歳の3番目の娘は膝と足に問題があります。膝は腫れて痛みを感じます。病院に行き針治療を行っています。目にも問題があり、月に2回病院に行き目薬と軟膏を買っています。

9歳の息子は心臓雑音が見つかりました。年に1回心電図をとっています。医者話では、年齢とともに病気が発症する可能性もあるとのこと。

夫はボイラー作業員として働いていて、月給は夏場で31万ルーブル（約100ドル）、冬

場で、45～50万ルーブル（150～160ドル）です。私は学校で守衛の仕事をしています。月給は30万ルーブル（100ドル）です。このような経済状態で、薬を買ったり、子どもたちを学校に行かせたり、ニーナを病院に通わせることは、私たちの収入だけではとてもできません。あなたのご支援がなければできませんでした。本当に感謝いたします。

（ベラルーシ ゴメリ州レチツァ地区ゴロフコ村 G・ニーナの母親より）

~~*~*~*~*~*~*~*~*~*~*~*

私たちはこれまでずっとチェルノブイリ事故による汚染地域で暮らしています。サーシャは今年5年生になりますが、通学ではなく自宅学習です。彼の健康状態では通学ができません。彼はほんとうに体が弱く、常に手の震えがあり、吐き気や鼻血が出たりします。彼の薬代にたくさんのお金がかかります。サーシャへのご援助に心から感謝しています。ほんとうにありがとうございます。あなたのご健康、平和、幸福をお祈りしています。

（ベラルーシ ゴメリ州 ロガチョフ地区 ストレニキ村 サーシャの祖母と家族より）

里親募集中

2011年1月より、病気の子どもに対して1ヶ月50ドル相当（12/1のレートでは4200円）を2年間支援してくださる方を募集しています。詳しい資料をご希望の方は事務局までご連絡ください。

黒部ドクターのお話

新しく登場して来たワクチンを どう考えるか (1)

今回は乳幼児のワクチンについてお話します。

1. ヒブワクチン(対象は2か月から5歳未満)

b型インフルエンザ菌によって起きる重症感染症(髄膜炎、肺炎、喉頭蓋炎で死亡率が高い)を予防するというワクチンですが、アメリカの研究で、子どもの鼻咽頭からの検出率は、2~5%あり、健康な保菌者がいます。しかも髄膜炎、肺炎、喉頭蓋炎は、日本では10万人あたり5歳未満児で5~8人ですが、アメリカではその10倍以上の子どものがかかっています。その差の原因は不明(私はストレス説です)。

特に2歳以下がほとんどで、通常の予防接種は、2か月から2歳までにします。この菌はハイリスクの子しか発病しません。それなのに、全員が接種すべきだとは思いません。6歳以上では非常にまれな病気です。ハイリスク(後述)の子だけ接種することで十分だと思います。

2. 肺炎球菌ワクチン(子ども用は7価ワクチン—対象は2か月から9歳まで—実際は5歳過ぎたら必要なし)

肺炎球菌による重症感染症(髄膜炎、肺炎、喉頭蓋炎)を予防するというワクチンですが、子どもの鼻咽頭からの検出率は常在菌とも言える程に多く、健康な子どもの3~4か月検診で17.6%、6~7か月検診で27.1%、9~10か月検診で36.5%と高い率で検出され、しかも肺炎球菌は93種類あり、その中で髄膜炎、肺炎を起こす菌は約25種類で、その中の主なもの7種のワクチンで、カバー率は、71~83%とされています。これもハイリスクの子どもだけに必要なワクチンです。重症感染症のほとんどが2歳以下で5歳過ぎるとほとんどなりません。また、ワクチンを接種しても、かかることがあります。アメリカの成績で、約3万8千人のワクチンの接種実験で、肺炎球菌菌血症にかかった

のは、接種者で1~3人、未接種者で39~49人でした。この結果有効という結論でしたが、未接種者のほとんどはかからなかったのです。この結果の評価が問題です。



3. 普通の子がハイリスクになるのを避けるには

これらの菌は、抵抗力の落ちた人だけに発病し、心身ともに健康な人は、発病しません。これらのワクチンは、先天性や慢性的の病気を持った子、貧困、栄養失調などのハイリスクの子は必要かもしれません。しかし、それらの子に加えて、私は、初めての子なら母親の溺愛するような子、後は第二子、第三子で、上の子におもちゃにされて、いじりまわされる(俗に可愛がるというが)子に出やすいと思います。のびのび、ほめて育て、叱らず、例えて言えば、孫悟空が、いくら飛びまわってもお釈迦様の手の内を出ることができなかったように。好発年齢は2歳以下ですから、悪いことをしても叱らず、すぐ他のことに(おもちゃなど)関心をそらし、関心をすり替え、言うことを聞いてくれたら、すぐほめることです。子どもは、ほめられたいから、言うことを聞いてくれます。北風にならず、太陽のように暖かく照らして、子どものマントをぬがせましょう。そうすれば、子どもは、病気にならないか、なっても軽く済みます。

つまり、子どものストレスをいかに無くすかがポイントです。ほめて育て、どうしても仕方がない時は、「仕方がないね、まあいいでしょう、しょうがないよね」とくよくよさせないことです。そして、旅行や行事などの時も、その対策をいろいろ考えて対処しましょう。

黒部信一：埼玉県新座市堀之内病院 小児科医師



***** 募金・救援状況 *****

●募金状況 2010年9月～11月

	9月	10月	11月
募金件数	106件	254件	186件
救援寄付金	270,960	*8,307,620	496,078
保養費	58,100	132,950	140,689
特別保養費	35,000	245,000	0
里子支援	119,270	203,440	188,590
'10 特別保養賛同金	38,000	134,000	67,000
通信費	24,000	54,000	26,000
合計(円)	545,330	9,077,010	918,357

* (株)カタログハウスより運営費として募金 150 万円を含む。

●救援状況<ベラルーシ> 2010年9月～11月

◎希望 21 (単位:円)
一般保養費 (2 回目分) 1,567,247

◎困難の中の子どもたちへ希望を

里子支援 5 人 (7～12 月分) 134,715

◎チェルノブイリのサイン

里子支援 12 人 (7～12 月分) 323,316

奨学生支援 6 人 249,192

通信費 13,471

♡ 募金団体名一覧 ♡

紙面の都合上、個人名は省略させていただいております。多くの方々からご寄付をいただきました。みなさまに心より感謝申し上げます。(順不同・敬称略)

【9月】

リサイクルグループ カリーナ／トランスフェリックマネジメント／ケイ歯科クリニック

【10月】

東用堂治療院／横浜市自治労横浜 総務支部／まほろば／T.M ヨオガ楽園／生活協同組合あいコープみやぎ／(有)ユーロアール／真宗大谷派 高德寺／ファッションハウス ラ・シーネ／イラク写真展の会三重・名張グループ有志／川和保育園 父母の会／(株)桜井書店／(株)カタログハウス／(有)ジェントル／民宿 夢民村

【11月】

リサイクルグループ カリーナ／(株)鹿王企画／木村眼科クリニック／学習院大学自治会再建委員会／川和保育園 父母の会／トランスフェリックマネジメント／(有)ニシヒロ商事／恵泉女学園中学・高等学校文化祭委員

～チェルノブイリの歌声～ みなさんからののお便りコーナー

<カレンダー購入者の声>

●カレンダーの写真を見て、亡くなった人たちの悲しみを心に刻みつけ、生きている人たちにはその幸せな生活を願いたいと思います。(愛知県 S さん)

●あのきれいな、しかし大事な命が描かれているカレンダーの残りの頁がなくなってしまつて、申し込みを忘れていたことに気付きました。また来年も 1 年間、原子力発電のこと未来の子もたちのことを考え続けるためにカレンダーを申し込みます。(東京都 S さん)

●カレンダー、ポストカードありがとうございます。紙のてざわりや写真の色もきれいで 1 ヶ月から順に見ていき、最後の子もたちの写真がとても自然でかわいらしく見入ってしまいました。(埼玉県 W さん)

●保育園に入園した 5 年前からチェルノブイリのカレンダーを使っています。今年は卒園したこともあり手に入らず、他のを探しましたが、やっぱりこれじゃなきゃダメですね！(川崎市 T さん)

●今年、定年退職しましたので、さらに支援しがたくなりましたが、出来る限り続けたいと思っています。子どもたちの状態は気持ちを暗くさせますが、さらに多くの人にこの実情を知っていただき支援者が増えることを期待したいものです。皆様の健康を祈りつつご活躍を期待します。(神奈川県 O さん)

<10/9 チェルノブイリ報告会(文京区民センター)参加者の感想>

◆多くの国で地球温暖化阻止の為という理由で原発を増設しようとしています、今日の話と映像で、危険なことをいっそう感じました。安全な自然エネルギーの利用を説に望みます。

◆チェルノブイリ事故のことはつい最近知りました。地球は一つで放射能もいつまでも残り続け、世界中に影響を与えるのに、何も知らなかった自分が恐ろしく感じます。今、日本でも CM で「原発は CO2 を出さないクリーンなエネルギーだ」というのをやっていますが、チェルノブイリのような事故が実際に起きることも知らなきゃいけないと思います。忘れてはいけない出来事だと思いました。

◆貴重な映像をありがとうございます。私は大学生で、今月末にチェルノブイリを訪問する予定です。そのためにいろんな本やテレビで予習していたのですが、本日の講演はとても役に立ちました。

◆過去のことを忘れてしまいそうな自分であつたり、世の中が興味・関心をなくすことに流されてしまいそうな中、何とか立ち止まり考え続けたいと思います。原発をとりまく社会情勢の中で、企業・国が何を利用し何を狙っているのか。そういったことを知っていきたいと考えています。

事務局から

■ボランティア募集

◎事務局では、毎月第 1・3 土曜日の午後 1 時半～5 時半、ボランティアの方に事務作業などを手伝っていただいています。

◎ニュース発送作業（年 4 回：3・6・9・12 月）

次回 3/19（土）午後 1 時～4 時ごろまで 東京ボランティア市民活動センター（飯田橋駅ビル セントラルプラザ 10 階）。少しの時間でも歓迎です。

◎ボランティア参加希望の方は、日程が変更になる場合もありますので前日までにご連絡ください。

【問い】平日午前 10 時～午後 5 時半 留守の場合は伝言をお願いします。T&F 03-5228-2680

■年末年始の休みについて

12 月 28 日（火）から 1 月 5 日（水）まで。

■「基金ニュース」について

募金をくださった方には、その使われ方の報告としてニュースレターをお送りしています。また、ニュース購読費（2,000 円／年）も募っております。印刷・発送などの経費の残金は、募金として使わせていただきます。

★チェルノブイリ 25 周年救援イベント

現在までの情報を 4 ページに載せました。詳細は次号ニュースに。その前、1 月中にはチラシを作り、チケットも発売の予定です。子ども基金のブログ、ホームページで随時新情報を更新します。

★『「チェルノブイリ」のいま 特別講演』（筑波大学）

2 月 9 日（水） 報告：佐々木真理

主催：「チェルノブイリ」のいまと向き合うプロジェクト
連絡先：松下（sei.kg.jp@gmail.com）（10 ページに関連記事あり。）※学内向けのイベントのため、一般の方で参加希望の方は上記へお問い合わせください。

★2011 年カレンダー、完売しました！

購入されたみなさま、ありがとうございました。お申し込みされたのに購入できなかったみなさま、これから購入されようと思っていたみなさま、大変申し訳ありません。



いつもあたたかいご支援をありがとうございます。
振込用紙・領収証につきまして、みなさまにお知らせとお願いです。

すべての方に振込用紙を同封しております

事務作業の都合により、まことに勝手ながらすべての方に郵便払込用紙をお送りしております。すでに通信費・寄付金を納入された方はどうぞご容赦ください。

住所変更の方はお知らせください

新旧両方の住所を、葉書・FAX・Eメールまたは払込票の通信欄にてご連絡ください。また、通信が二重に届いている場合、ご家族で連名による一通送付でもよい場合なども同様にお知らせください。

払込取扱票のお名前・ご住所は

楷書でわかりやすくご記入ください

郵便局からは払込取扱票のコピーが届きます。文字がかすれて判読しづらい場合がございますので、楷書でわかりやすくご記入ください。

「受領確認の葉書」をご希望の方へ

通信費・寄付金を納入された方で、受領確認の連絡をご希望の方には、葉書（金額は記載せず）をお送りします。振込用紙の該当欄に印をつけてください。

「領収証」が必要な方へ

郵便局払込取扱票の「払込受領証」は公に認められる領収証です。大切に保管ください。別途領収書をご入り用の際はお申し出ください。

●ご不明な点がございましたら問い合わせください。

☆下記の寄贈品をいただきました。ありがとうございます。2010 年 8 月「希望 21」へ 寄贈いたしました。

淡川典子様より折り紙、佐藤素子様より折り紙、永井良子様よりハンカチ、藤田進様より大相撲カレンダー、平凡社様より雑誌「にっぽん」、三重チェルノブイリ被曝児童救援募金様より折り紙・絵の具・クレヨン・文具。

発行人●チェルノブイリ子ども基金 鈴木 稔 ● 発行日 2010 年 12 月 18 日（年 4 回発行）

〒162-0816 東京都新宿区白銀町 25 メゾンド原 207 号室 Tel/Fax 03-5228-2680

郵便振替口座 「チェルノブイリ子ども基金」 00160-4-98316

ウェブサイト＝<http://www.smn.co.jp/cherno/index.html> e-mail: chern1986@tokyo.email.ne.jp

事務局ブログ ◇神楽坂事務局だより <http://blog.goo.ne.jp/cherno1986jimukyoku/>

※当基金は任意団体のため、ご寄付は税金控除の対象とはなりません。ご了承ください。

現地メディアによるチェルノブイリ関連ニュース、翻訳の上、随時ブログ・HP で更新中